

明治三十九年五月廿九日第一第二、修正決
議第三、原案決議

馬政局官制

馬政局職員特別任用令

馬政局高等官、官等ニ關スル件

勅令第

號

馬政局官制

第一條 馬政局ハ内閣總理大臣ノ管

理ニ屬シ馬匹ノ改良蕃殖其ノ他馬

政ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二條 馬政局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁

親任

馬政長官
馬政次長
馬政官

專任十八人
勅任
勅任又ハ奏任
奏任

書記官

專任一人
奏任

種馬牧場長

專任三人
奏任

種馬育成所長

專任一人
奏任

種馬所長

專任十五人
奏任

技師

專任八人

屬

專任二十六人
判任

書記

專任二十一人
判任

技手

專任百十三人

第三條 馬政局ハ之ヲ東京ニ置ク

地方ニ種馬牧場種馬育成所及種馬

所ヲ置キ馬政局ノ事務ヲ掌セシム

ム

第四條

馬政長官

總裁ハ局務ヲ總理シ職負ヲ

監督ス

第五條

馬政長官

總裁ハ奏任官ノ進退ヲ内閣

總理大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進

退ヲ行フ

第六條

馬政長官

總裁ヲ佐ケ局務

ヲ整理シ事務ヲ監督ス

第七條

馬政官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ

經營及監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條

書記官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ

局務ヲ掌ル

第九條

種馬牧場長ハ上官

總裁ノ指揮ヲ

承ケ種馬ノ蕃殖及飼料ノ耕作ニ關

スル事務ヲ掌理ス

第十條 種馬育成所長ハ總^{上官}裁ノ指揮

ヲ承ケ幼種馬ノ育成及調教並飼料
ノ耕作ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十一條 種馬所長ハ總^{上官}裁ノ指揮ヲ

承ケ種馬ノ飼養管理及種付ニ關ス
ル事務ヲ掌理ス

第十二條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ

技術ヲ掌ル

第十三條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶

務ニ從事ス

第十四條 書記ハ種馬牧場種馬育成

所及種馬所ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承
ケ庶務ニ從事ス

第十五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ

技術ニ從事ス

第十六條 種馬牧場ハ三箇所、種馬育

成所ハ一箇所、種馬所ハ十五箇所ト

ス

第十七條 種馬牧場、種馬育成所及種

馬所ノ名稱、位置、並種馬所ノ管轄區

域ハ内閣總理大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ之

ヲ施行ス

勅令第

號

馬政局職員特別任用令

第一條

馬政^{次長}官

ハ滿五年以上馬政

官ノ職ニ在リ又ハ在リタル者ヨリ

之ヲ任用スルコトヲ得

馬匹ニ關スル職務ニ從事シ現ニ勅

任官^{トシ}者又ハ宮内省勅任官ノ職

ニ在ル者ハ當分ノ内馬政^{次長}官ニ任
用スルコトヲ得

第二條 馬政官ハ滿三年以上種馬牧
場長、種馬育成所長、種馬所長若ハ馬
政局技師ノ職ニ在リ若ハ在リタル
者又ハ陸軍現役將校ニシテ滿三年
以上軍馬補充部ノ部長若ハ部員ノ

職ニ在リ若ハ在リタル者ヨリ文官
高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任
用スルコトヲ得

第三條 種馬牧場長、種馬育成所長及
種馬所長ハ馬匹ニ關スル技師タル
資格ヲ有スル者ヨリ文官高等試験
委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

附則

本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ之
ヲ施行ス

馬政官ハ本令施行後二年間ヲ限り馬
匹ニ關スル技師タルノ資格ヲ有スル
者ヨリ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經
テ之ヲ任用スルコトヲ得

文官任用令第六條ニ依リ任用セラレ
タル屬ニシテ現ニ馬匹ニ關スル職務
ニ従事スル者ハ本令施行ノ際ニ限り
馬政局屬又ハ馬政局書記ニ任用スル
コトヲ得

勅令第 號

馬政局職員特別任用令第一條第二項、
第二條、第三條又ハ附則ニ依リ宮内省
高等官又ハ陸軍將校同相當官ヨリ馬
政局高等官ニ任用セラルル者及任用
セラレタル者ノ官等ニ付テハ高等文

官轉任ノ例ヲ準用ス

前項ノ官吏ハ明治三十六年勅令第二
百八十五號ニ依ル特別文官トス

附則

本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ之
ヲ施行ス



馬政局官制馬政局職員特別任用令及馬政局高等官ノ官等ニ關スル件審査報告

謹テ今回御諮詢ノ馬政局官制馬政局職員特別任用令及馬政局高等官ノ官等ニ關スル件ヲ審査スルニ馬政局官制ハ從來馬匹ノ改良蕃殖ヲ圖ル爲種馬牧場及種馬所ヲ置キ農商務省ヲシテ之ヲ管轄セシメタルモ自ラ殖産上馬匹ノ改良蕃殖ニ重ヲ置キ軍馬改良蕃殖ノ目的ヨリ見レハ其ノ效果ノ著シカラサルノ遺憾ナキ能ハス然ルニ曰露戦争ノ經驗ニ依リ益軍馬改良ノ

急務ナルコトヲ認メタルヲ以テ此ノ際馬政ニ
関スル大規模ノ官廳ヲ設ケ以テ馬政ヲ振興シ
家畜並軍馬トシテノ兩様ノ觀察點ヨリ馬匹ノ
改良蕃殖ヲ圖ラムトシ從テ農商務陸軍ノ兩省
中何レカニ屬セシムルコトハ不便宜ニシテ亦
特ニ一省ヲ設ケテ一省長官ノ責任ヲ負ハシム
ルノ必要ナキヲ以テ之ヲ内閣總理大臣ノ管理
ノ下ニ置カムトスルモノニシテ行政組織上ノ
變體ニ屬スト雖モ軍馬改良ノ必要ナル場合ニ
際シ一時ノ政策トシテ此ノ如キ官制ヲ制定ス

ルモ亦已ムヲ得サルノ措置ト認ム次ニ馬政局
職員特別任用令外一件ハ況ハ馬匹ニ関スル職
務ニ經驗アル者ヲ採用スルノ必要アルヲ以テ
特別任用ノ途ヲ開キ尚其ノ官等ニ關シ必要ノ
規定ヲ設ケムトスルモノニシテ是亦已ムヲ得
サルモノト認ム而シテ官制及任用令中條文ノ
解釋ニツキ多少疑義ニ涉ルノ點ナキニアラス
ト雖モ事至急ヲ要スルノミナラス夫等ノ點ニ
關シテハ内閣ノ解釋ヲ確メ置キタルヲ以テ三
案其總テ原案ノ儘可決セラレ然ルヘシト思料

ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

明治三十九年五月二十六日

樞密院書記官長都筑馨六

樞密院議長侯爵山縣有朋殿

参照



○文官任用令

明治三十二年三月
勅令第百六十二號

第六條 滿五年以上雇員トシテ同一官廳ニ勤

續シタル者ハ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經

テ直ニ其ノ官廳ノ判任文官ニ任用スルコト

ヲ得

○明治三十六年勅令第二百八十五號

十二月

(初叙官等ノ制限ヲ受ケサル高等文官他ノ高等文官

ト為ル場合ノ官等ニ關スル件)

第一條 本令ニ於テ特別文官ト稱スルハ高等
官官等俸給令第七條ニ依ル初級官等ノ制限
ヲ受ケサル高等文官ヲ謂フ

第二條 特別文官他ノ高等文官ト爲ル場合ノ官等ハ前
ニ他ノ高等文官タラサリシ者ニ付テハ高等官六等以
下トシ前ニ他ノ高等文官タリシ者ニ付テハ前官等
以下トス但シ前官等七等以下ナルトキハ陞シテ六等ニ至ルヲ得
第三條 前條ノ場合ニ於テハ特別文官在職年
數滿二年ニ對シテ一等ヲ陞叙スルコトヲ得
前ニ他ノ高等文官タリシ者前條ノ場合ニ該

當スルトキハ其ノ前官等七等以下ノ場合ヲ
除クノ外其ノ官等在職年數ヲ特別文官在職
年數ニ通算シテ前項ノ規定ヲ適用ス但シ前
ノ他ノ高等文官在職滿二年以上ナルトキハ
其ノ在職年數ハ二年トシ特別文官在職年數
ニ通算ス

前二項ノ在職年數ニシテ特別文官ヨリ他ノ
高等文官ト爲ル際陞叙ノ爲算用セラレサル
モノハ新ニ叙セラレタル官等ノ陞叙年數ニ
通算ス但シ前ノ他ノ高等文官ノ官等以上ニ

敘セラレサルトキハ此ノ限ニ在ラス

○軍馬補充部條例

明治二十九年五月
勅令第百九十三號

第一條 軍馬補充部ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ
軍馬ノ供給、育成、購買並軍馬ノ資源ノ調査
ヲ掌ル所トス

○種馬牧場及種馬所官制

明治二十九年四月
勅令第百三十九號

第一條 種馬牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ
左ノ事務ヲ掌ル

一 馬匹ノ改良、蕃殖、育成及其ノ試験ニ關

スル事項

二 種馬ノ補充及配布ニ關スル事項

第七條 種馬所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 種馬ノ飼養管理ニ關スル事項

二 牝牡馬配合ニ關スル事項

三 民有種馬ノ監督ニ關スル事項

四 種付牝馬ノ産駒成績ニ關スル事項